報道関係者各位

2026 年 11 月 26 日
ストライプジャパン株式会社

Stripe インサイト：SaaS 終焉論を覆す「Stripe SaaS インデックス」を発表

ショックの裏で起きていた「SaaS ルネサンス」　Stripe のデータが示す SaaS 市場の実態

- **収益成長の維持と加速：**2026 年初頭の株価急落にも関わらず、SaaS 企業の収益成長は前年比 30% 超と力強く推移
- **新興 SaaS の高成長：**Stripe での初回決済から 1 年未満の新興 SaaS 企業が異例の成長速度を記録しており、AI 活用が高成長を後押し
- **米国市場の堅調さ：**米国市場は株価急落後も成長を加速させており、持続的な拡大傾向を維持
- **特定業種の突出：**ヘルスケアや小売、専門サービス向け SaaS が特に好調に推移

プログラマブルな金融インフラを提供する Stripe は、SaaS 企業の成長性を測る「Stripe SaaS インデックス」を発表しました。本指標は、Stripe が運営する経済ウェブメディア Stripe Economics にて、毎週更新しています。最新のデータはこちらからご覧いただけます。

「SaaS 終焉論」とは何だったのか？2 兆ドル蒸発の裏で起こっていた SaaS 市場の成長

2026 年はじめ、企業向け SaaS の株式市場は深刻な株価急落に見舞われました。2 月はじめごろまでに企業価値は約 1 兆ドル (約 150 兆円) 蒸発し、その後の数週間で減少額は最大 2 兆ドル (約 300 兆円) に上ったと推計されています。この一連の株安ショックは「SaaSpocalypse (SaaS の終焉) 」と呼ばれました。売りの直接の引き金以上に、「AI の急速な進化が、SaaS のビジネスモデルそのものを脅かすのでは」という懸念が市場全体に広まっていました。

しかし、市場の実態はすでに「SaaS 終焉論」とは異なる動きを見せ、SaaS 各社の株価はその後、概ね下落前の水準へと回復していました。本来、株価指標は将来の見通しを反映するものですが、足元の業績実態も一定程度は織り込まれているはずです。一方で、「SaaS 終焉論」による市場のショック自体が、採用の停滞や資金調達の難航といった形で、SaaS 企業の収益そのものに悪影響を与えたのではないかという懸念も残されていました。

こうした疑問を検証するため、Stripe は独自の「Stripe SaaS インデックス」を開発しました。[*1]

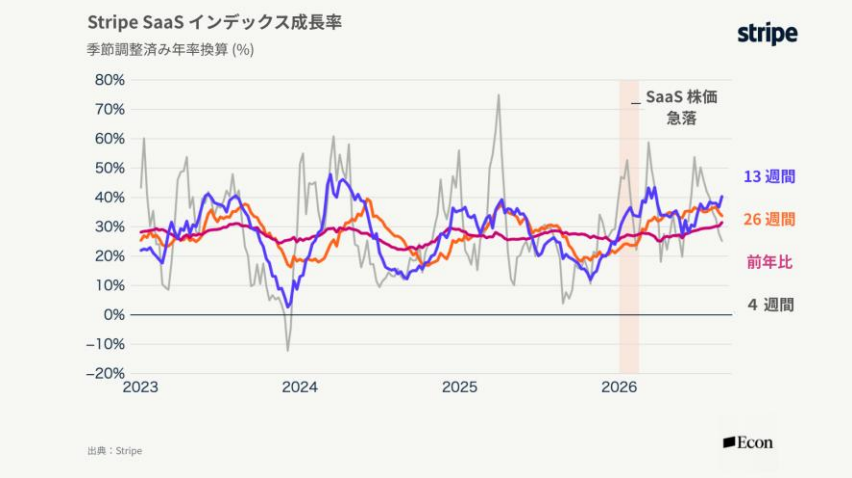


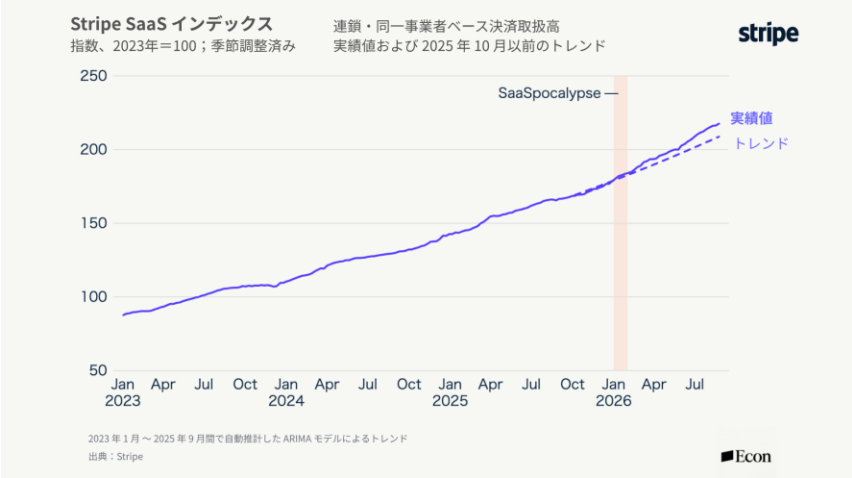
SaaS の収益成長は「終焉論」の渦中も加速

Stripe SaaS インデックスの分析から、「SaaS 終焉論」とその後の市場実態に関する重要な事実が浮き彫りとなりました。足元の SaaS 収益成長は依然として力強く、2025 年末のペースからさらに加速しました。

前年比成長率は現在 30% を超えており (2026 年 9 月時点)、2023 年夏に記録した過去最高水準と同等、あるいはそれ以上の水準で推移しています。週次の成長率は短期的な振れ幅が大きいものの、2026 年を通じて上昇傾向が続いており、特に 13 週間移動平均・26 週間移動平均の推移において顕著な加速が見られます。

Stripe SaaS インデックスの累積成長率の推移からも、同様の傾向が裏付けられます。現在の指標水準は、「SaaS 終焉論」が広まる前の成長トレンドを 4% 上回っています。2025 年 5 月初頭から 12 月末までの成長率は 14% でしたが、2026 年 1 月以降の同期間では 21% に達しました。このデータは、2026 年はじめに起こった株価急落が過剰反応であったことを示唆しているのでもなく、また、その株価急落が SaaS の収益に与えた影響を完全に否定するものでもありません。しかし少なくともこのデータは、当時の市場の売り圧力は将来への懸念のみに基づいたものであり、短期的な SaaS 企業の実態や業績の好調さとは乖離していたことを明白に示しているといえるでしょう。



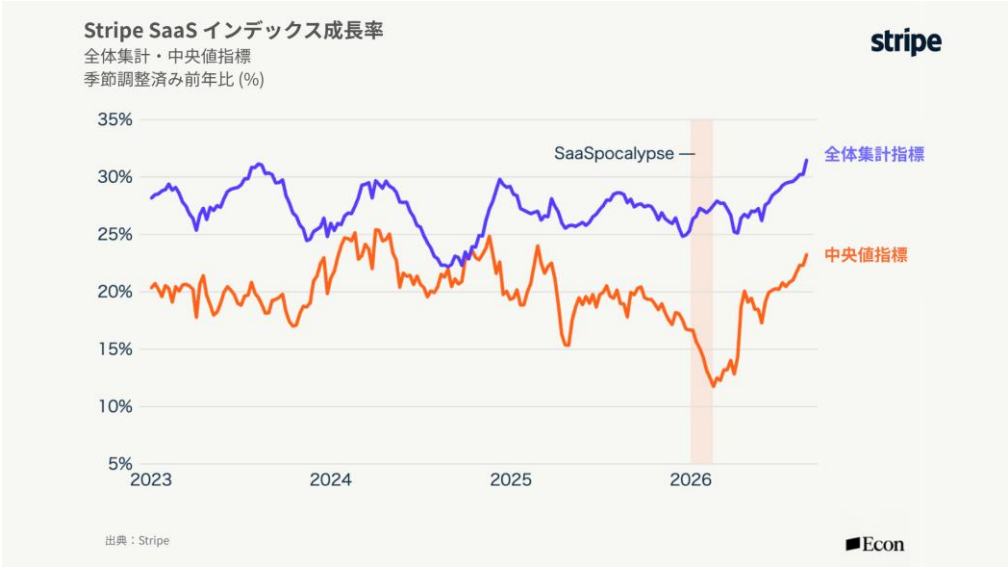


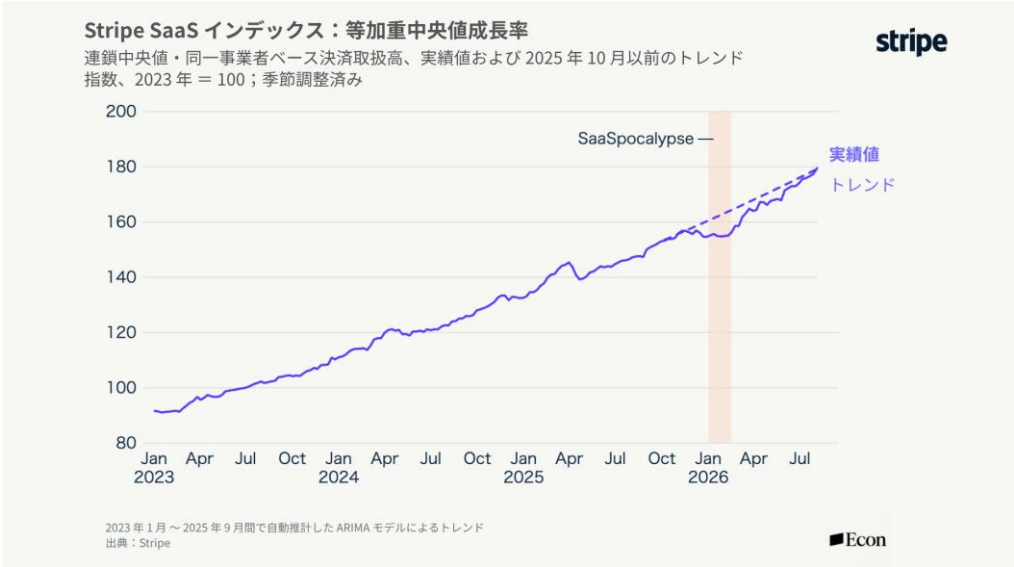
SaaS 企業の成長の底堅さを支えた大手 SaaS 企業

主要指標が「標準的な SaaS 企業」の実態をどの程度反映しているかを検証するため、企業ごとの決済取扱高成長率を等加重で扱った中央値ベースの代替指標も開発しました。主な指標と同様に同一事業者ベースで分析しており、Stripe 導入企業の構成変化の影響を受けにくい指標ですが、加重を行わないため、企業規模を問わず「標準的な SaaS 企業」の動向をより忠実に再現しています。

この中央値の指標からは、主要指標とはやや異なる動きが見えてきました。標準的な SaaS 企業では、株価の売り局面において週次収益の伸びが実際に鈍化しており、その傾向は 2025 年末頃からはじまっていたことがうかがえます。しかし、2026 年初頭に株安局面が収束すると、標準的な SaaS 企業の成長率は 2025 年の水準を大幅に上回るペースへと急速に V 字回復してい

ます。その結果、累積ベースで見ると、中央値インデックスは「SaaS 終焉論」発生前の成長トレンドとほぼ同水準まで回復していることがわかりました。





新興 SaaS 企業は異例の成長速度を記録

新興 SaaS 企業 (Stripe での初回決済から 1 年未満) と成熟 SaaS 企業 (同 1 年以上) は、ともに「SaaS 終焉論」の渦中において成長が加速しました。しかし、いずれでも市場のショック期に入る前の成長軌道には明確な差が存在していました。

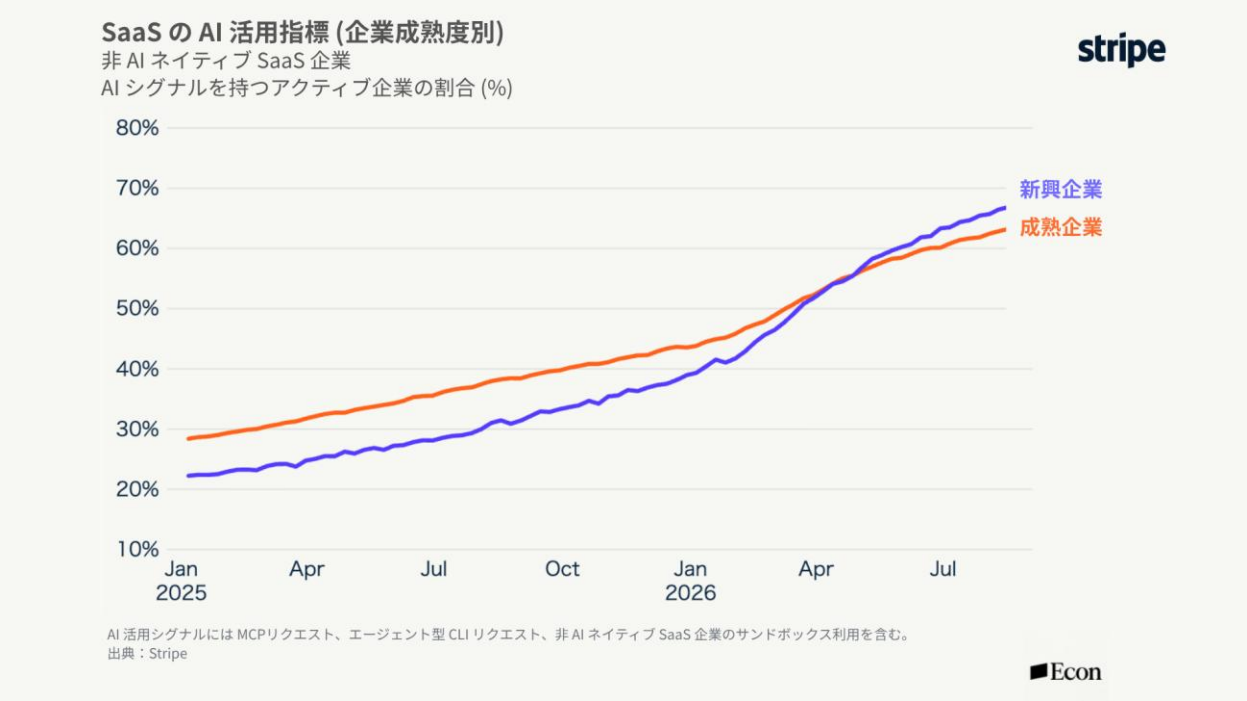
新興 SaaS 企業は 2025 年半ばから収益成長率が急速に拡大し、株安の中でもその成長の勢いを維持しました。足元では伸び率がやや落ち着いたものの、2025 年の成長ペースを大きく上回る高水準が続いています。一方、成熟 SaaS 企業は 2024 年末から 2025 年初頭にかけて成長が加速したものの、2025 年末にはすでに減速の兆候を見せていました。しかし、「SaaS 終焉論」が広がった時期を境に減速に歯止めがかかり、成長率は再び 2025 年半ばと同等の水準まで回復しました。

いずれの成長パターンも、「SaaS 終焉論」による業界全体の収縮が起きた場合に予想されるシナリオとは真逆の結果となっています。特に新興 SaaS 企業の力強い成長は、SaaS 市場の短〜中期的な明るい材料と見ることができます。





新興企業が相対的に成長を加速させた一因として、AI 活用の急増が考えられます。Stripe はすべての AI 利用状況を把握しているわけではありませんが、MCP リクエスト、エージェント型 CLI リクエスト、サンドボックス環境の利用といったそれぞれのシグナルを通じて企業の AI 活用動向を注視しています。これらの AI 活用指標は、新興・成熟 SaaS の双方で緩やかな上昇傾向を示しています。2026 年初頭まで、成熟 SaaS 企業は AI シグナル（いずれか 1 つ以上の活用率）で新興企業を 5 ポイント上回っていました。しかし、同年 4 月以降、この格差は急速に縮小して逆転。現在では、新興 SaaS 企業が Stripe の AI ツールを活用している割合は、成熟 SaaS 企業よりも 4 ポイント高い状態となっています。



米国の SaaS 市場はショック後も持続的な成長を維持

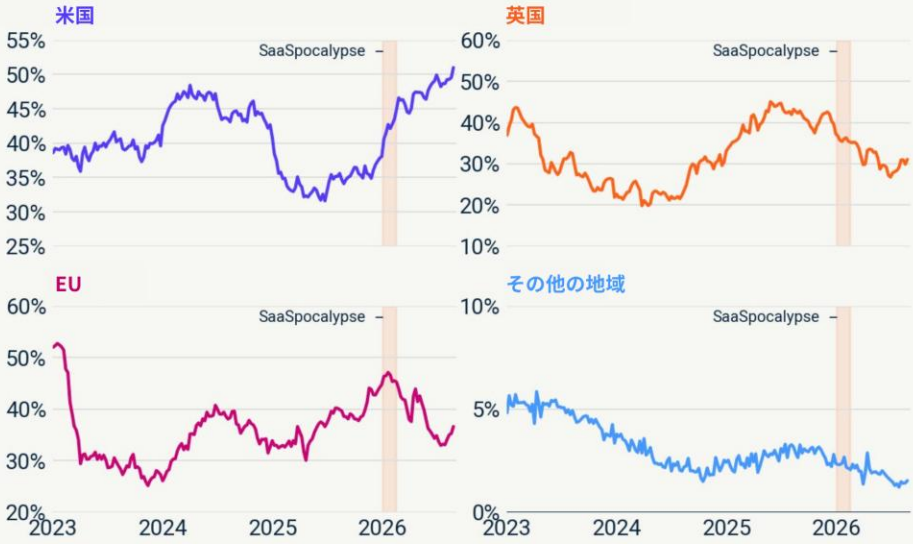
2025 年を相対的にゆるやかな成長で推移した米国市場は、「SaaS 終焉論」の局面にかけて明確な加速へと転じました。成長率は 2024 年の水準まで回復し、直近ではそれを上回る勢いを見せています。累積成長率においても、2025 年 10 月以前のトレンドラインをわずかに上回る水準で推移しています。

欧州市場は株安局面で一時的な成長加速を見せたものの、その後は高成長を維持できず、2024 年末から 2025 年初頭にかけてと同等のペースに戻っています。それでも累積ベースでは、株安局面以前のトレンドを上回る水準を維持しています。一方、英国およびその他の地域では、2025 年夏に成長のピークを迎えて以降、緩やかな減速傾向が続いており、「SaaS 終焉論」の前後で明確な転換点は確認されていません。累積ベースでは、英国がトレンドをわずかに上回る一方、その他の地域はわずかに下回る結果となっています。

Stripe SaaS インデックス成長率 (地域別)

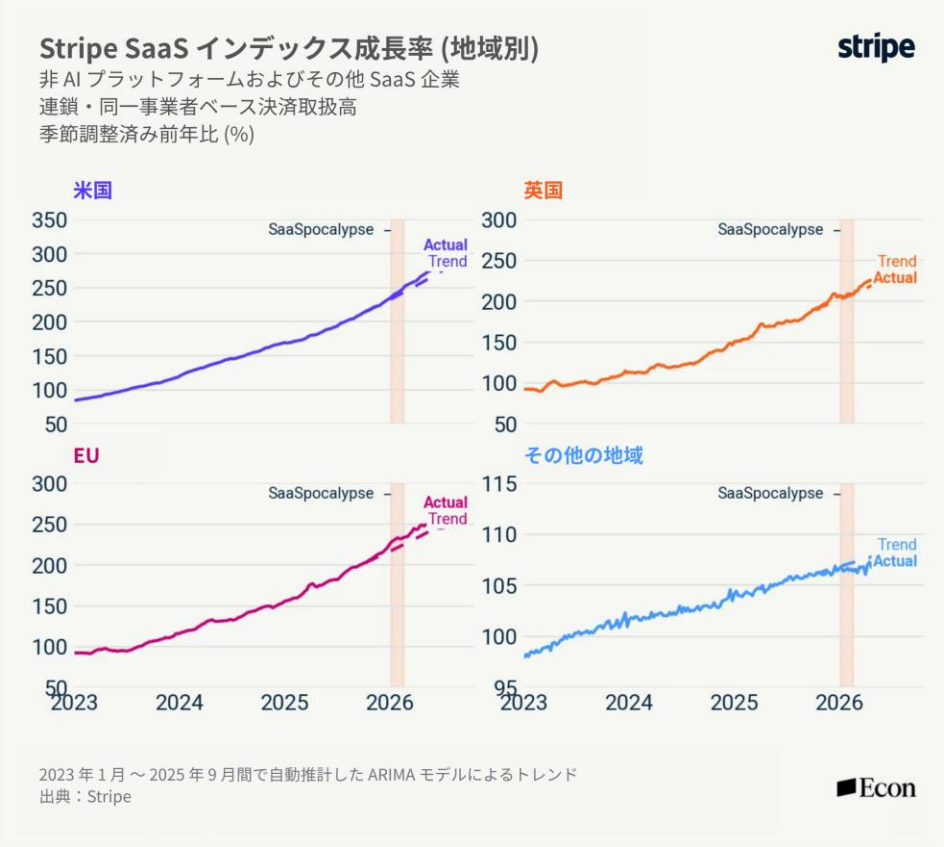
stripe

非 AI プラットフォームおよびその他 SaaS 企業
連鎖・同一事業者ベース決済取扱高
季節調整済み前年比 (%)



出典：Stripe

Econ

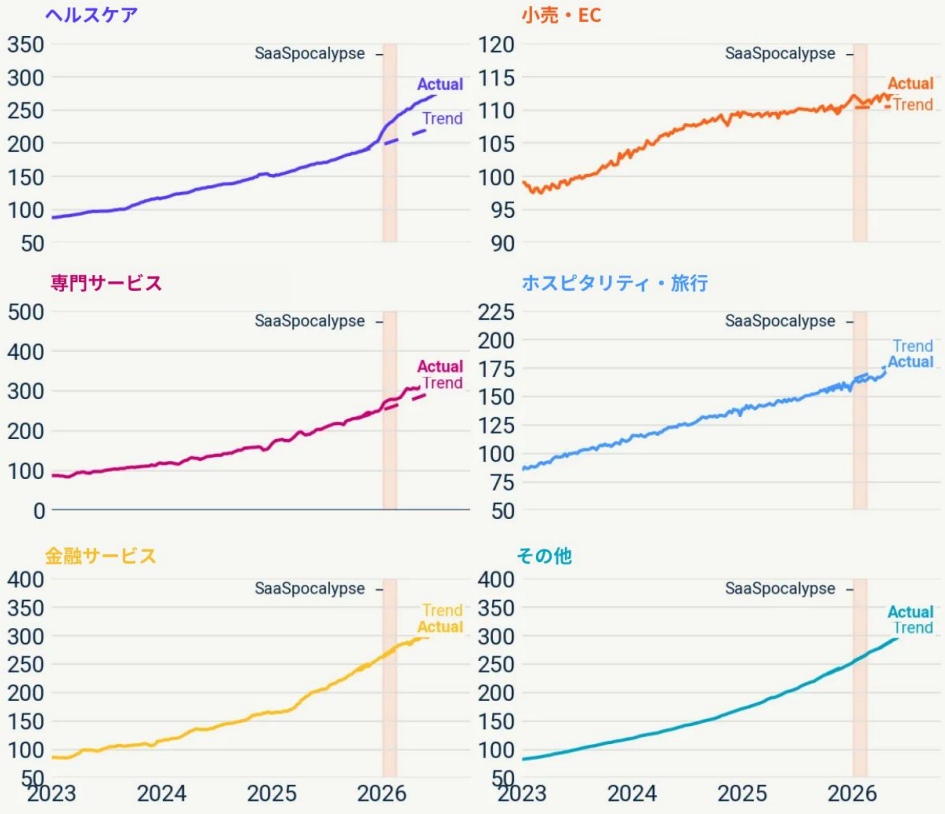


特に好調なヘルスケア、小売、専門 SaaS

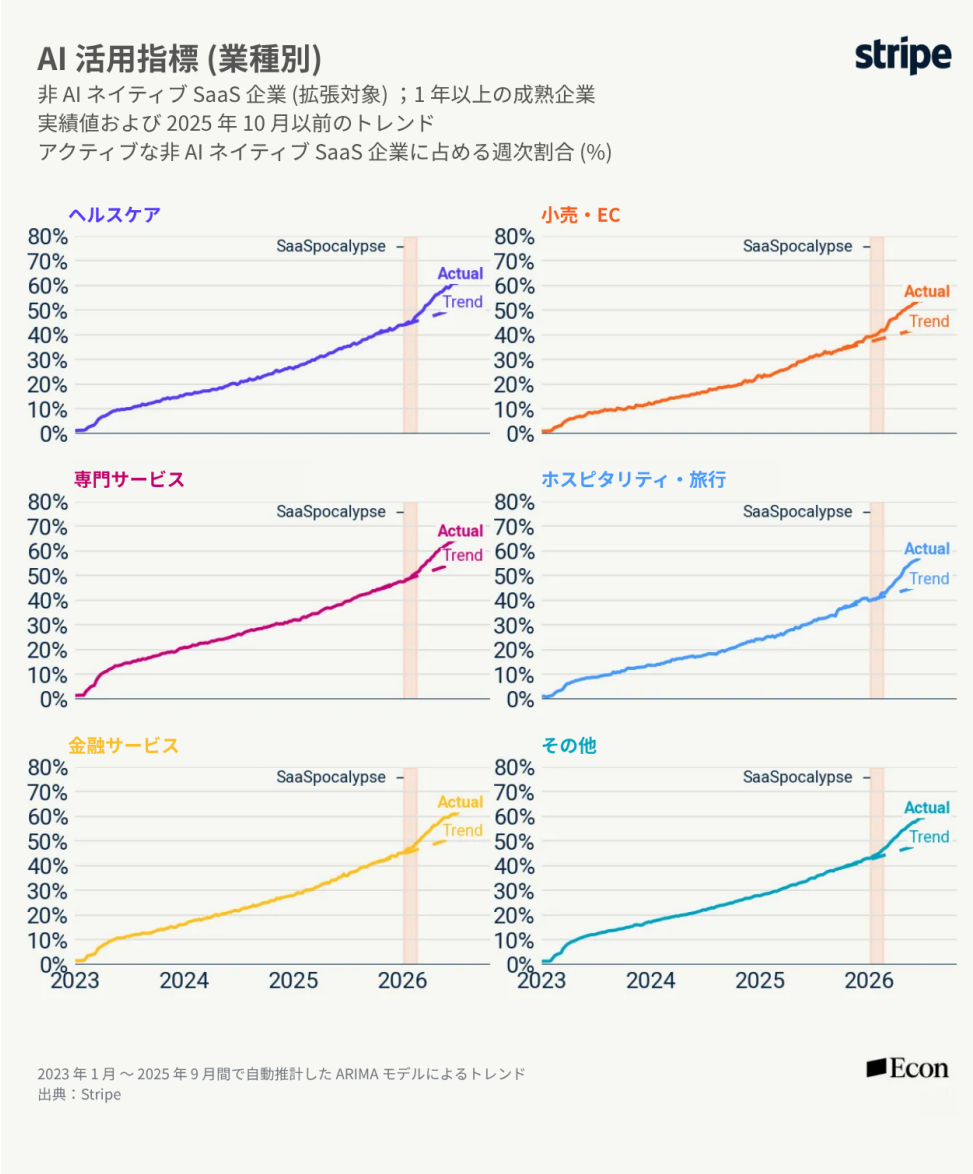
SaaS の対象業界ごとの成長推移に顕著な違いが見られています。ヘルスケア向け SaaS は、「SaaS 終焉論」の渦中に収益成長が急加速しました。小売および専門サービス向け SaaS も売り局面以前のトレンドを上回って推移していますが、その上振れ幅は限定的です。金融サービスなどのその他のセクターは、従来のトレンドと同等の水準を維持しています。総じて、SaaS の収益は業種を問わず、株安ショック発生後も底堅い推移を見せています。

Stripe SaaS インデックス (業種別)

連鎖・同一事業者ベース決済取扱高
全非 AI ネイティブ SaaS 企業；実績値および 2025 年 10 月以前のトレンド
指数、2023 年＝ 100；季節調整済み



2023 年 1 月 ～ 2025 年 9 月間で自動推計した ARIMA モデルによるトレンド
出典：Stripe



なお、「SaaS 終焉論」以降の業種間における AI 活用指標には大きな開きは見られません。このことから、AI 活用率のみでは、2026 年におけるヘルスケア業界の顕著な成長優位性を十分に説明できないことが示唆されます。

今後の Stripe SaaS インデックス

Stripe SaaS インデックスは、SaaS 業界のリアルタイムな健全性を客観的に評価するための有用な指標となることを目指しています。金融市場は常に将来を予見して動いており、非常に速いスピードで変化していきます。需要動向と企業バリュエーションがどのように相互作用して

いくかについては、今後の推移を注視する必要があります。Stripe は引き続き独自の決済データや外部指標を分析し、データに基づくインサイトを定期的にお届けしてまいります。

Stripe SaaS インデックスについて

*1 本指標は、非 AI 系 SaaS 企業の健全性を名目収益ベースで週次・同一事業者比較によって測定するもので、Stripe の決済取扱高(PIV : Pay-Ins Volume) データを活用し、主要な指標は、2026 年に入って週平均 72,000 社を対象に集計しています。同一事業者ベースのデータ分析であるため、Stripe 自体の市場シェアの変化や、Stripe 導入企業数の増減といった構成変化の影響を排除し、事業者個々の純粋な成長トレンドを正確に捉えることができます。また、週次データを採用することで、公開財務データや四半期決算よりも迅速に業界の構造変化を把握することができます。なお、詳しい算出方法は本記事の末尾に記載しています。本指標は今後も Stripe の公式ウェブサイト上で定期的に更新する予定です。

※決済取扱高 (PIV)は、財務諸表の損益計算書と完全に一致するものではありません。Stripe 以外の決済手段で処理された取引は含まれず、企業の営業費用や利益率を反映するものでもありません。本指標は、Stripe 固有の要因を排除した上で、SaaS 市場全般の需要動向を把握するための先行指標としてご活用ください。

【参考】算出方法

Stripe SaaS インデックスは、Stripe の決済プラットフォームを通じて処理された非 AI 系 SaaS 企業の週次決済取扱高 (顧客からの支払い総額) を集計・分析した Stripe 独自の経済指標です。主要インデックスおよび地域・業種別のサブインデックスには「フィッシャー指数」を採用しています。これは、前週と当週の双方に存在する企業の週次成長率の幾何平均を時系列で連鎖化したものであり、事業者の参入や離脱による構成変化の影響を排除した同一事業者ベースの指数です。また、急速な業績の立ち上がりや急落による極端な寄与度の歪みを防ぐため、データのウィンソライズ (外れ値の調整) 処理を実施しています。一方、中央値指標はフィッシャー指数ではなく、前週・当週の双方で正の決済金額が存在する SaaS 企業の、非加重成長率の中央値近似値を連鎖化したものです。それ以外の点においては、主要インデックスと同様にチェーンリンク、季節調整、平滑化処理を適用しています。なお、基準となる決済取扱高は固定為替レートで米ドル換算しているため、週次の指数変動に為替レートの変動は影響しません。ま

た、週次データには季節調整およびカルマンフィルターを用いたボラティリティ除去を施しています。

原文: The SaaSpocalypse was more like a RenaiSaaS | 2026 年 9 月 10 日発表

#####

Stripe について

Stripe は、プログラマブルな金融サービスを構築する企業です。世界の何百万もの企業が Stripe を利用して、オンラインおよび対面での決済や組込型金融、収益モデルのカスタマイズを推進し、より収益性の高いビジネスを築いています。サンフランシスコとダブリンに本社を置く Stripe は、世界の GDP の 1.6% に相当する年間 1.9 兆ドル (約 300 兆円) 以上の決済を処理しています。AI とステーブルコインにフォーカスを置いた事業拡大と研究開発への投資を通じて、Stripe はグローバル経済における最先端技術の普及に貢献しています。

詳しくは https://stripe.com/jp をご覧ください。